

令和8年度 むつ市スマートシティ推進協議会 要約

開催日：令和8年9月3日

推進協議会（9月3日）の重要成果とハイライト

1. CIO 吉田真副市長によるAX方針の表明

山本知也市長が所要により急遽欠席となったため、CIOである副市長の吉田真氏が挨拶を行いました。

DXから「AX」への大転換：

デジタルを水道や電気と同じ「日常の道具」とし、最先端のAI技術を街づくりの前提とする「AX（AIトランスフォーメーション）」の実現に踏み出すことが、産官学金の代表者に向けて力強く表明されました。

2. 案件1：スマートシティ推進戦略2026の概要

情報・DX戦略課（藤島）より、独自の「都市OS」への高コストな依存から脱却し、汎用クラウド（Google Cloud / Chromebook）やLINEを徹底活用する「合理的で持続可能なDX」の概要が説明されました。

窓口改革と「人間の温かさ」：

2035年に手続きのデジタル完結率90%を達成し、AIによる自動化で浮いた「人間の時間」を、複雑な課題を抱える市民への「対面での深い伴走支援」に全シフトするという、人間中心のAX（AIトランスフォーメーション）ビジョンが提示されました。

3. 案件2：「むつ市アプリ」の劇的な費用削減効果の開示

事業者によるポータルアプリの開発説明において、協議会内での非常に大きな発見がありました。

「むつ市アプリ」のコストメリット：

委員からの「これまでのコストと削減効果はどうか」という極めて鋭い質問に対し、事務局から「これまで展開していた『むつ市住民パスポートアプリ（むちゅぱ）』の年間ランニング費用は2,300万円かかっていたが、今回新しくなる『むつ市アプリ』は開発費約1,200万円、年間のランニングコスト約500万円で推移する予定であり、非常に劇的なコスト削減（維持費の約78%削減）が実現する」という具体的な比較数値が初めて提示されました。

4. 案件3：「むつMaaS」の小さくアジャイルに始めるロードマップ

交通政策課から、北海道室蘭市や洞爺湖町の先進事例（マイバス停機能やタクシー共同配車による割引チケットの還元など）が紹介されました。

現実的な推進アプローチ：

むつ市は東京23区の1.4倍と非常に広大で、1つの交通システムだけでは解決でき

ないため、まずは「交通空白地を小さく潰していく（住民の足を確保する）」第1ステップから始め、順を追って第2ステップとして恐山や脇野沢などの「観光路線・観光客との連携」に踏み込んでいく現実的なロードマップが合意されました。